

「ネ」「ウシ」「トラ」「ウ」「タツ」「ミ」「ウマ」「ヒツジ」「サル」「トリ」「イヌ」「イ」

ある時、お正月過ぎに伺ったご利用者様のお家で、幼稚園児のお子さんに「おばちゃんは何どし？」と聞かれたことがあります。私の歳を探ろうとしている？と一瞬ドキッとしました。きっと年賀状やご家族との会話の中から干支に関心を持ったのでしょうか。すてきなことだと思いました。



新しい年がやってきて干支はネズミからウシにバトンタッチ。

「ウシ」と言えば、学問の神様である菅原道真を祀る天神さまや天満宮では牛の像を良く見かけます。横須賀久里浜のイオン前の天神社の境内にも牛の像がありますね。これは「撫で牛」と言われて、牛の頭を撫でると頭が良くなり、自分の体の悪いところと牛の同じところを撫でると病気が良くなるご利益があると言われているそうです。しかし「コロナ禍の中では手で撫でるのではなく心の中で撫でてください」と、ある天満宮の宮司さんがテレビでお話されていました。初詣の分散も言われていて、そんなところにも影響のある新年のスタートとなりました。

さて、それぞれの干支の動物はどんなふうに鳴くでしょう？幼稚園や保育園でよくする言葉遊びをご紹介します。お風呂の中や渋滞時の車の中などちょっとの時間にお子さんと楽しんでみてはいかがでしょうか。道具は何も要りません。

「なーいたないた」遊び

おとな：「なーいたないた」
こども：「なーにがなないた」
おとな：「うーしがなないた」
こども：「も〜」

「なーいたないた」
「なーにがなないた」
「ねずみがなないた」
「ちゅうちゅうちゅう」

「なーいたないた」
「なーにがなないた」
「フライパンがなないた」
「なかないよ」



いろいろな動物の鳴き声を登場させて遊びます。先に言うのを交代してもいいし、時々鳴かないものを入れてもおもしろいです。どう鳴くかは固定概念にとらわれずこどもの感性にまかせて。

ところで、私は「ウマ」年生まれですが年齢はナイショです。